社会福祉法人
ミッドナイトミッションのぞみ会

2010／8／1　No.54
発行者：社会福祉法人　ミッドナイトミッションのぞみ会
本　部：〒293-0023　千葉県富津市川名1436番地

「中核地域生活支援センター方式」を千葉から全国に拡げよう

常務理事
井本　義孝

平成十六年十月に県下十四ヶ所に設置され、その運用がはじまりました。母体は社会福祉法人、ＮＰＯ等です。大まかな特徴は、いつでも、どこからでも、困った事があれば、相談を受付けますという、今までにない画期的な社会福祉サービスにありました。

教育（不登校等）子育て（保育所選び）雇用（障害のある方等）等々人生百般に及び、その対応は、日曜、祭日も普段同様なのでした。中には深夜定期的にお電話下さる方もおられました。携帯に転送されてくるのもあり、担当者は深夜でもお受けしました。しかし、お身体にハンデのある方々や、認知症のご家族には大変喜ばれています。特に発達障害のある方々はもちろん、その保護者、ご家族には心の支えとなり感謝されています。

本年になり、六年目に入って、予算が約十四％削減されました。具体的にはおよそ三二五百万円が二七九百万円となり、四六百万円減額となりました。由々しきことです。県の委託事業ですから予算の増減があるのは普通でしょう。

問題は、当事者である夫々の運営責任者に何の予告も相談もなく、措置されたことです。

県全体の相談件数は毎年増え続け（柏市分除く）二十一年度は約九二千件となりました。内訳は身体、知的、精神からのいわゆる三障害者群で約七十％を占めています。千葉県には約二十七万人の方々にハンデがあり、社会的自立の困難な方々が多数おられます。相談センターは敷居が低く、夫々の専門スタッフ（相談員、コーディネータ）が応接し、頼りにされています。来所者は他に高齢者、児童関係、その他貧困問題、住居問題があり民間ならではの役割を十分に果たしていることは衆目の一致するところです。

「障害のある人もない人も共に暮らし易い千葉県づくりの条例」の全国に先駆けての施行と共に、少子高齢社会における貧困、不登校生の増加、親子関係の不安定等家庭機能の脆弱化に伴う諸般の支援制度として「中核の果たしてきた役割」を県は今一度見直してほしいものです。

時恰も、六月の閣議に於いて、首相は平成二十年を目標年次とし「少子高齢社会に於ける日本モデル」をこの一年間研究会を設け策定するとのことです。

又、その中に於いて、様々な要因で困窮している人に対して、パーソナル・サポーターと呼ばれる専門職がマンツーマンでかかわり就労や生活のサービスをコーディネートする政策を導入するとのこと。制度や、仕組みの縦割りを超へ、必要な支援を継続的に行なうことは「中核」が先刻実施してきたところです。

千葉県は、国の政策に先立ち中核として実施しておりこれを予算縮小し矮小化することは、時代に逆行するものです。先人の残したよき政策は県民の財産であります。千葉県は中核地域生活支援センターの実績を正しく評価すべきではないでしょうか。
（本法人は「君津ふくしネット」を受託しています）

望みの門　バザー報告

バザー実行委員長　田尻　隆

六月五日（土）今年の望みの門バザーはお天気の心配の全く要らない青空の下、盛大に開催されました。

一番乗り…十時の開店に向け職員は七時前から最後の準備に取り掛かります。すると毎年一番乗りして頂くお客様が今年も元気なお顔を見せてくれました。「ここのバザーは品物がいいねぇ。特に着物がいいのよ。」開店三時間前というのに早くも並んで頂きました。

おにぎり…ある職員は毎年自宅で五升の米を炊き、色とりどりのおにぎりを作ってきてくれます。開店直前に一緒に頬張るおにぎりで職員のチームワークも一層強くなります。一方、バザーに関わる職員を施設から送り出すために現場を支えている職員もいます。まさに望みの門全職員が力を合わせるバザーなのです。

太鼓…オープニングイベントには近所の富津保育園からかわいい応援団が駆けつけてくれました。子どもたちの奏でる力強い太鼓の響きは「今年のバザーも成功間違いなし。」と私たちを勇気づけてくれました。暑い中並んで頂いているたくさんのお客さまからも自然と笑顔が生まれてきます。

初参加…今回初参加は「市原市災害ボランティアネットワーク」の皆さん。災害時にも炊けるご飯でカレーを作っていただきました。日頃の活動からいろいろな防災グッズもご紹介くださりたいへん勉強になりました。

バンド演奏…中央ステージでは「君津ロータリークラブ」の皆さまによるバンド演奏の始まりです。おなじみの歌や夏ムードいっぱいのハワイアンで会場をさらに熱くして頂きました。

穴場…知る人ぞ知るバザーの穴場が「朝日新聞店」の皆さまがご用意くださるくじ引きコーナーです。今年の目玉景品は店長が大切に育てている「メダカの赤ちゃん」です。熱い会場の中、涼しげに泳ぐメダカが印象的でした。店長はバザーのチラシ配布にも快く協力してくださいます。

お見舞金…バザーの売り上げの中から、大地震の被害からまだ多くの人々がテント生活を強いられているチリ・ハイチにお見舞金をささげることができました。両国の一日も早い復興をお祈りいたします。

このように、この日望みの門に集まった子どもから大人まで一人ひとりが、まさに額に汗してバザーを盛り上げてくれました。現在、望みの門には約一八〇名の職員がいますが、もし一人一万円ずつの寄付をすると今回の売り上げに近い金額が集まることになります。これならわざわざバザーを開かなくても良いのでは？確かにバザーに費やす膨大な労力を考えるとこちらのほうがずっとスマートなやり方なのかもしれません。けれども私たちはバザーをとおして数字には表れない多くの善意に触れることができました。貴重な献品をご寄付くださった皆さま。ボランティアとしてバザーを支えてくださった皆さま。そして炎天下の中たくさんのお買物をしていただいたお客さま。目には見えない多くの方々との繋がりは望みの門の財産となり、さらに

この地域での働きが育まれ成長していくことでしょう。これこそ福祉の原点といえるのではないかと思います。

日曜日の夜、いつの間にか家族がテレビの前に集まり「龍馬伝」を見ている姿、深夜のワールドカップサッカー中継に「ニッポン！」コールで大いに盛り上がる姿。時に私たちは日本人であることに喜びを覚え、日本のことを愛おしく思える機会に出会います。同じように、今回の望みの門バザーをとおして私たちは改めて望みの門に連なる一員であることに喜びを覚えるとともに、望みの門は実に多くの方々に支えられ愛されている群れであることを実感することができました。感謝を込めここにご報告させて頂きます。

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
中古衣料	242,625	材料費	437,923
雑貨	769,149	通信費	320
ベーカリー	139,840	作業代	8,880
屋台	704,500	雑費	285,597
寄付金	204,300	お見舞金	50,000
小計	2,060,414	小計	782,720
利息収入	163	法人寄付金	1,200,000
前期繰越	244,603	次期繰越金	322,460
合計	2,305,180	合計	2,305,180

望みの門紫苑荘・望みの門楽生園・望みの門在宅三部門
ISO9001・2008 更新審査に合格！

総務課嘱託　菊地　正弘

五月十一～十二日、ムーディ・インターナショナル・サーティフィケーション（MIC）による更新審査を受審し合格しました。

更新審査は、三年毎に実施されるもので当日は、MICより審査員二名が来訪され全部門に亘って詳細な審査が行われました。

審査の結果、規格に違反するような不適合事項はなく、観察事項二件（次回審査で再確認される事項）、改善事項（推奨事項）八件の指導を受けました。また、特に好ましい点として六件挙げて頂き、予想よりも良い結果を得ました。

このことは品質管理責任者（四名）や内部品質監査員（十七名）を主体にした日頃のPDCA（計画・実行・チエック・改善）活動が実を結び、今回の結果につながったものと思われます。

ISO9001品質マネジメントシステムの認証取得は、二〇〇六年四月から準備を始め、二〇〇七年五月十四日に本審査に合格して以来、今年度で四年目を迎えました。

この間、品質管理責任者や内部品質監査員の方々には、最も重要な品質マニュアルの作成・改訂と内部品質監査・マネジメントレビュー等の実施を通して諸業務改善の経験を積まれ、これらをベースに現在も「利用者満足度の最大化」に向けて「望みの門品質マネジメントシステム」の構築に熱心に取り組んでおられます。

これからも井本総合施設長の定められた「基本理念・品質方針」即ち「私たちは、福祉サービスを求める人々の人格と権利を尊重し、キリストの教えにしたがい最適な福祉サービスの提供を約束します。」の基に、更にPDCA活動を推進し、認証取得の効果を上げるよう努めていきます。

望みの門ハイム（住宅型有料老人ホーム）
二〇一一年一月オープン予定

望みの門ハイムの特徴

この老人ホームは、公益事業として社会福祉法人が経営するもので、入居者の意思と人格を尊重し、「施設」でなく「在宅」である事にこだわり、小規模ホームの特性を最大限に発揮し、〃家庭的な雰囲気の場〃を提供します。医療的ケアが必要な場合は、車で十数分の提携協力病院があり、外来診療はもちろん、万が一の場合にも、当ホームの看護師と共に迅速な対応を行ないます。又、二十四時間スタッフが常勤で、夜間の巡回も行い、万全のサポート体制と共に、各居室、浴室等には緊急通報装置を設置し、緊急時には即時に対応します。安全・安心して自分らしく生活

できる場と、豊かで活力ある生活を送るために、生きがいを発見するお手伝いを目的として運営するホームです。（毎週施設内の望みの門教会で礼拝を守ることができます。）

建物の概要

所在地　千葉県富津市富津六一七ー三

敷地面積　三、八五〇㎡

建築面積　三〇〇㎡

延べ床面積　五三三㎡

構造　木造準耐火建築物二階（スプリンクラー設置）

入居戸数　十戸（二人用一戸）

共用施設概要　受付フロント、食堂（多目的ホール）、健康相談室緊急通報装置、浴室、トイレ、洗濯室、汚物処理室、トランクルーム自動販売機コーナー、駐車場など　**附属設備等**・トイレ、浴室（六居室）ミニキッチン、洗面、クローゼット、洗濯機置き場、TV、電話回線

ご利用料金

入居申込金　一〇〇、〇〇〇円
契約時には、入居一時金に充当します。

入居一時金　最低額　一六〇万円
最高額　二八〇万円
期間内（五年）に解約の場合、規定により、無利息で返還します。

家賃相当額　四〇、〇〇〇円～六〇、〇〇〇円
居室面積、浴室の有無等による。

食　費　四一、四〇〇円
一、三八〇円（一日）×三十日

管理費　三五、〇〇〇円
事務管理、生活支援サービスの人件費、共用施設の維持管理、備品、消耗品費等。

光熱水費　九、〇〇〇円
各居室及び共用部の電気・ガス・水道料金等。

「月払い基本料金の例」
（食費については一月二十五日、一人三四、五〇〇円として試算。）

①家賃四〇、〇〇〇円の場合の一月あたり総合計支払金額＝一一八、五〇〇円

②家賃六〇、〇〇〇円（二人居室）の場合の一月あたり総合計支払金額＝一七三、〇〇〇円

＊介護が必要な方は介護保険を使い、介護実績の一割自己負担となります。

＊医療費・通信費・消耗品費・個別選択サービス等の費用は実費となります。

ご見学・ご相談・お問い合わせは
TEL・〇四三九ー八七ー五〇七七
FAX・〇四三九ー八七ー一九七八

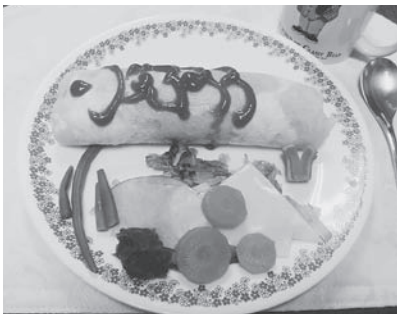
東京望みの門　マナの家

「料理を作りながら思うこと」

非常勤調理員　**中島八重子**

私がお手伝いするようになって早三年。主な仕事は、料理作りです。我が家の子ども達が喜んだものを順ぐりに作り、その反応を楽しんでいます。

そして今は、最近流行のB級グルメのアイデア料理を見つけては、お店に行って味を探り、真似して作ってみたりしています。「これ何?!」が、笑顔で「ん！」になるのを期待しているのですが、時には、「変なのォ。」のまま終わるのもあり、そんな時でも私が負けじと、「食育はね、『食べたいものを食べさせるのではなく、食べさせたいものを食べさせる』なのよ。」などと反論すると、「それって、意味違うんじゃない?」と。



寮生達との、掛け合い漫才のような屈託のない会話もおもしろみの一つです。

料理作りの上で心掛けているのは、一、なるべく品数を多くすること、二、材料の種類をたくさん使うこと、三、いろいろな食べ方があると伝えることです。人数の分だけ好き嫌いがあり、一つの料理に鍋三つなんてこともありますが、おいしく食べてくれれば嬉しいです。

若い寮生の皆さんが、この先結婚して、子どもをもった時に、参考にして料理を作ってあげてくれたらと、思いを馳せています。

一つだけ心残りなのは、緊急で入られた東南アジアの方のこと。

十年前に日本に来てから、一度も故郷に帰れないまま重篤な病気になってしまわれたとお聞きしました。

せめて、故郷を思い出すことのできる料理

を味わってもらえたらと思い、お国のレストランに行って、日本にない香辛料を分けてもらって来たのですが、他の食材を集めているうちに、違う所に移って行かれました。もっと早くしてあげれば良かったと後悔しています。今は大変かもしれないけれど、元気を出して頑張っていただきたいと願いながら、今日もまた、寮生や緊急で入られる方々に喜んでいただけたら、という思いで、この寮のキッチンに立っております。

婦人保護施設　望みの門学園

私達にも出来ます「受けるより　与えよ」

副主任作業指導員　吉田　恵子

二十一年二月、学園から歩いて一〇分の所に、地元の方より、元メロン畑を借用して畑を開拓しました。昨年は実り少ない年でしたが、今年はジャガ芋が大豊作でした。夏野菜の収穫も順調で毎日の食卓を賑わしています。

背丈ほどあったカヤ、枯れた松の木も十本以上あり、それぞれの根っ子のすごかった事、今まではその光景が嘘のような見事な畑に出来上がりました。学園総出の苦労の賜物です。

収穫した野菜の収益で、かずさの里ピーターパン基金に昨年につづき、今年も協力する事が出来ました。

軽井沢の家、シーズン前の清掃ボランティアに、今年も七月一日～三日まで、利用者さん四名、職員二名で行って来ました。

屋根の上、天上のくもの巣、ベット、ソファーの下、物置き。洗面台の物入れ等々、隅から隅まで、何度もＯＫが出るまでやり直しを指示された人も最後まで頑張って終る事が出来ました。掃除は苦手だからと、門から裏庭までの草とりを一人で見事にやりとげた〇〇さん。終って帰る時は、家の中の空気がキーンと澄み切った、すがすがしい気分になりました。大変だったと思われる皆さんの顔も明るく輝いていました。

軽井沢の家は、旧軽井沢銀座まで歩いて六～七分の所にあります。是非行って見て下さい。

学園の年頭目標、今年は「受けるより、与えよ」です。どうしても「受ける」事が当たり前の様になってしまう日々の生活の中で、ピーターパン基金に協力し、軽井沢の家で働けた事、彼女達に「与える」喜こびの機会を与えて下さった神さまに感謝の気持ちで一ぱいです。

養護老人ホーム　望みの門楽生園

『見えないもの』

施設長　白鳥　正道

祝ワールドカップベスト十六。前評判は散々な書かれようでしたが、大変な盛り上がりでした。観客は応援する個人やチームの状況に一喜一憂します。時には怒って周りに当たり散らす人もいるほどです。傍で見ていて「何でそこまで…」と思うほどです。なぜあそこまで真剣に怒ったり喜んだり出来るのか不思議に思います。今回惜しくも負けてしまった、パラグアイ戦後の街頭インタビューで「ＰＫは運だから」「よく頑張った」「ありがとう」と称賛する言葉を多くの方が使っていました。結果以上にプロセスに対し感謝を捧げる言葉でした。力いっぱい戦った姿はとても感動的でした。そこに「達成感や満足感」を得ることが出来ました。

ＩＳＯの取り組みを始めて四年目を迎えました。利用者お一人お一人に満足感を提供することを目標に日々改善に取り組んでいます。四年目を迎え、このシステムが、機能として浸透するためには、今までとは違った視点や工夫が必要だということを審査時アドバイスしていただき、新たな気づきを得ました。今後の課題として、働く職員や、利用者家族への満足についても『最大化』を視野に入れ取り組まなければと考えます。

昨年はドイツより交換留学生が二名訪日しました。それに伴い今年は研修生を送る側に

なり、先日行われた日独子ども・家庭アカデミー（ピーターパンの会）総会においてご承認いただき、かずさの里と楽生園で二名の職員をドイツへ派遣することが決定しました。お二人には、このチャンスを積極的に活かしてほしいと思います。言葉や食事に不自由な場面はあるでしょうがそんな中から得るものもきっとあるはずです。まずは体調管理に注意し、いっぱい吸収し、今後の交換研修に繋がる交わりを期待しています。九月には元気に帰国されることを心からお祈りします。

特別養護老人ホーム 望みの門紫苑荘

暑中見舞い申し上げます

施設長　簾　昭博

先日の情報番組で、誰もが持ち合わせているが、ある一定の状況にならなければ活動しない遺伝子〝ser2〟の機能について触れられていました。ある一族が九十歳を超える長命であることから、その一族の生活様式を分析したところ、共通して、この〝ser2〟遺伝子が活動しており、低カロリーの食生活をしている。そして、ポリフェノール含有率が非常に高いボタンボウフウという野草を好んで食しているということでした。これらの因果関係についてはっきりと聞き取ることはできませんでしたが、低カロリーの食事を継続すると、眠っていた〝ser2〟遺伝子が活動を開始し、細胞が活性化されるという見解だったように記憶しています。通常は高齢になると細胞再生が鈍くなるので、体全体の機能が低下していきますが、この遺伝子が働くと細胞機能が活性化されるとのことでした。言うなれば、この遺伝子は生命維持装置のような機能を持っているとも言えるのではないでしょうか。

また、長年水分・食物を一切摂取していないというインド人の話題がクローズアップされていました。これは過剰すぎるケースかもしれませんが、巷では、断食による健康療法の効果も取りざたされています。人間が本来持ち合わせている機能は、非常に精密に設計されており、これらの健康法は、その機能を活性化させる状態を意図的につくりだしているということでしょう。

私たちの食生活は大変豊かなものとなり、ともすれば必要以上のカロリーを摂取しているかもしれません。とはいえ、食は生活の基本であり、生活の彩りでもあります。いつまでも美味しく食事を摂りたいという気持ちは誰しも同じではないでしょうか。

昨今では、高齢者を取り巻く食事産業が盛んになってきており、施設にもこの波が来ています。厨房の外部委託を採り入れる施設も増えているようです。

しかし、望みの門では、どの施設も一貫して自前の食事提供にこだわっています。紫苑荘では、栄養士の管理のもと、入所者の年齢層に合わせた適正なカロリーで、彩り豊かな食事の提供に努めてまいりました。これからも、利用者の方々に喜ばれる食事提供に努めてまいります。

老人デイサービス事業 望みの門デイサービスセンター

「利用者に喜んでいただくために」

副主任介護員　鈴木　美雄

利用者は、在宅での生活をしつつ、個別利用日は異なりますが、デイサービスセンターに来られて、朝九時半から夕方四時まで過ごされます。

午前中は、殆んどの方が入浴されて、他の利用者と会話する等、比較的ゆったりした時を過ごします。また利用者毎に持っている機能の低下を防ぐための、機能訓練を看護師により行っています。嚥下体操の後、お昼ごはんを頂きます。食事介助が必要な方もおられますので、職員が介助に当たります。食事の後は、昼寝をしたり、他の利用者とおしゃべりをしたり、テレビを観る等自由に過ごされています。

午後一時四十分からは行動的な時間となります。テレビ体操・ゴムを使った体操・立ち上がり運動を行います。水分補給をした後、職員が交替で担当する「お楽しみ活動」を行っています。個人対抗やチーム分け対抗を盛り込んだゲームを行う週や、「調理・創作」を行う週もあります。利用者に調理に加わってもらい、おやつとして食べたり、創作では、季節により壁に飾る画を、利用者がちぎり絵や折り紙を貼って完成させています。

梅雨明け間もなく、猛暑の続く折ではありますが、皆さまも食事を中心とし、健康維持に御留意されますよう願っています。

四月から、数年前まで行っていた「曜日対抗ゲーム」を復活させました。これは、同じゲームを一週間に亘って、月曜日から土曜日まで、同じ人数で公平化して行うゲームです。曜日によって利用者の顔ぶれは異なり、同じ曜日の利用者同士が、チームの一員としてゲームに参加するのです。そしてチームワークで他の曜日チームとタイムを競ったり、点数を競い、作った個数を競い合うゲームなのです。

デイサービスセンターでは、利用者に喜んでいただくために、そしてより良い一日を過ごしていただくために、職員各々が力を出し合って、感謝のうちに日々努力しております。

知的障害者授産施設 望みの門新生舎

「新生舎 夏のイベント始動（二〇一〇）」

作業指導員　山本　朋美

前夜からの大荒れの天気から一転して袖ヶ浦公園バスハイク当日は快晴。澄み渡る青い空に真夏の日差し。雨で中止になることばかり心配していたのが一変して日焼けの心配へと変わりました。帽子を忘れた人には麦わら帽子があったよな。水分補給はペットボトル二本で大丈夫かな。あと、発作のある人は…。お昼の薬は誰と誰…。などなど、あれこれ考えているうちにバスハイクがスタートです。あいにくアヤメの時期は終わっていましたが池を渡る風が気持ちの良いこと。まずは遊ぶ前の腹ごしらえで早々に木陰でお弁当をひろげることとしました。手作り風のお弁当はなかなかのもので、「いただきまーす」の声がいつもより大きかったような気がします。満腹になったら早速活動開始。毎日昼休みにクラブ活動のように取り組んでいたS君とO君はバトミントンの試合を始め公園を賑やかにします。応援にも熱が入ってお互いの勝負に一喜一憂。勝敗は来週の昼休みに、となりました。他にもブランコや大きな滑り台、ローブコースターなどそれぞれがゆっくりたっぷり楽しんでいました。一面のクローバーの花畑で首飾りを編んでいるNさんには私自身が忘れかけていた「少女」を思い出させてくれました。

いろいろ心配はしてみたもののみんなきちんとルールを守って行動でき、体調不良になる人もなく楽しい時間を過ごすことができました。事故もなく怪我もなくは当然なのですが私一人で出来るものではなく、他の職員のアドバイスやサポートがあってこそと感じる次第です。また、それ以上に利用者さん一人ひとりが集団や社会の中のマナーを守って行動できていることが大きな成果であったと感じました。お弁当や荷物を自分から進んで運ぶ人。速く歩くのが苦手な人に合わせてゆっくり歩いてくれる人。それぞれが相手を気遣ったり手伝ったりする姿がたくさん見受けられました。新生舎での作業や行事を通していろいろな経験を積み重ねる度に成長と頼もしさを感じるのは私だけではないようです。

このようにして新生舎の夏のイベント第一弾。少し軽めの前菜「バスハイク」は盛況に幕を閉じることとなりましたが、この後には第二弾のジャンボプール。そして第三弾にはメインディッシュのサマーキャンプへと突入していくこととなります。自分のことは自分でやる。仲間と上手に生活を共にする。自分で考え自分で判断し行動する。楽しいけれどためになる貴重な三日間です。初めての人にはちょっぴり勇気が必要ですが、一夏の成長を実感する行事となるでしょう。今日より明日。今年よりも来年。少しでも一歩でも、何かを通じてひとつでも成長に結びつけられたらと考えます。

一体型共同生活介護事業所 グレースホーム

グレースホームの「一泊旅行」について

主任世話人　藤崎　美智

グレースホームでは、今年も七月三日、四日と夏季親睦旅行に行ってきました。今年の行き先は、例年のようにあれこれと検討を重ねた結果、養老渓谷の「滝見苑」となりました。「滝見苑」の利用は初めてなので、

旅館のスタッフの方と打ち合わせをした上で、旅館の中の階段や段差の状況はもちろんのこと、お風呂の様子なども調べ決定しました。この「滝見苑」は、有名な「粟又の滝」の近くで、数年前にリニューアルされた人気のある旅館です。

夏季親睦旅行は、利用者さんが最も楽しみにしている行事のひとつですが、今年は残念なことに一名の利用者さんが入院しており、初めて全員の参加を得ることはできませんでした。また、井本常務理事もお忙しくて、参加していただくことができず、寂しい旅行となってしまいました。

旅行当日は、お昼ご飯を食べてから滝見苑の迎えのバスに乗り込み出発しました。約一時間三十分程で旅館に到着し、それぞれの部屋に入りお茶で一服。そして、楽しみにしていた温泉です。露天風呂などもあり、温泉を十分満喫しました。温泉の効果か？お肌もスベスベになり若返ったようです。

さて、午後六時からは宴会場で、夕食を兼ねた暑気払いです。藤代さんの乾杯の音頭で気分は最高潮に。おいしい料理に舌鼓をうちながらも、カラオケで歌う曲探しに夢中です。聞くところによると、この日のために練習していたとか…。

楽しい宴会も終了し、それぞれの部屋に戻り、夜遅くまでテレビを見たりと、ゆっくりとした時間を過ごすことができました。

翌日は、朝食を食べてから旅館のバスで、「四季の蔵」目指して出発。バスの中では、昨夜の宴会の続きのように、みんなで懐メロの大合唱。そうこうしているうちに、あっという間に四季の蔵に到着してしまいました。四季の蔵では、みなさんが真剣にお土産選び。それぞれ思い思いに買い物を楽しみました。買い物も一段落したところで昼食です。みなさんご馳走をペロリと平らげ大満足。お土産を沢山手に持ち、バスに乗り込みグレースホームに向け帰路につきました。

こうして今年の旅行も、事故もなく無事に終えることが出来ました。今回は新しい場所だったため心配していましたが、買ったお土産だけではなく、それぞれの心の中に沢山の楽しい思い出を作ることが出来ました。今後も健康管理に努めながら、来年こそは全員が参加できるようにしたいと願っています。

地域活動支援センター　望みの門ヨカデイサービスセンター

新しい出入り口が出来ました

介護員　倉本　幸一

新しく出入り口が出来ました。その出入り口はガラス窓が大きく外が良く見えます。ヨカデイの庭も良く見えるように成り、また部屋の中に光がたくさん注ぎこまれとても明るくなりました。小鳥が餌をついばむ姿や、猫が悠々と歩く姿が部屋の中から見られます。利用者さん達から、「庭の草取りをして、食べられる野菜を植えよ。畑にしようよ」という声も聞かれています。また、ある利用者さんからは「気もちが良いから一日中、外を見ていても、あきない」と、窓のそばに椅子を寄せてながめています。この新しい出入り口の完成を機に、どんな庭にするのか利用者さんと一緒に考えていきたいと思っています。生きがいのもてる活動をしながら、明るいヨカデイして行きたいと思っています。

また、利用者さんの体調や気分も考慮しながら、楽しい行事の計画を立てるように心がけています。今年のいちご狩りは、近くでゆっくりといちごを食べる事にしました。昨年までは、チョットしたドライブを兼ねて、半日出掛けていたのですが、ゆっくり入浴したい人、ゆっくり食事をしたい人もいらっしゃるので、いちご狩りはいちごを食べるだけにしよう。ドライブはまた別の機会に計画しよう

と言う事に成りました。今年は望みの門から近い『白久いちご狩り園』（大貫）に、お邪魔しました。若いご夫婦がとてもよくしてくださり、ゆっくり食べ満足をして帰ってきました。

これからの行事も、利用者さんが満足でき、安心、安全で楽しい活動を考えていきたいと思います。

中核地域生活支援センター　君津ふくしネット

君津ふくしネットに移って

心理相談員　川澄耕一郎

ちょうど三年間勤めた児童養護施設望みの門かずさの里から中核地域生活支援センター君津ふくしネットに異動して半年が経ちました。

君津ふくしネットでは、様々な相談への対応、施設間調整などの地域コーディネートが主な業務となります。

不勉強がたたり、異動直後などは戸惑いの日々が続きました。そんな迷いの中にあっても相談者は絶えることなく訪れ、私の眼前で涙さえ流しながら苦しんでいらっしゃるのです。

「今の自分に何が出来るだろうか、何をすべきだろうか」

自問自答の日々が続きました。

否、未だ続いているというのが正直な実情です。

一方で、この問いに答えがあるのだろうか、安易な答えで満足してしまったら、自分の援助技術は緩慢なものになってしまうのではないだろうか、そのように感じることもあるのです。

答えの出ない〝曖昧さ〟を抱え続ける強さを、かつ、答えを諦めない強靭な意志を欲してやみません。

聖書には、「そこでわたしはあなたがたに言う。求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば見出すであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求めるものは得、捜す者は見出し、門をたたく者はあけてもらえるからである。」ールカ十一章九・十節ーとあります。

迷いの中にあってもこの御言葉を覚え、業務に邁進しなければならないと決意を強くする次第です。

このように未熟な私ではありますが、職員の方々のあたたかい励ましに力づけられ、微力ながらも君津ふくしネットの一員として働けることに感謝いたします。

そして、相談に来られる方々の悩み苦しみから、人というものの深遠を学ばせていただき、自身を成長させてもらえることに、何よりの敬意と感謝の念を抱かずにはおれません。

「だから、平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか」ーロマ書十五章十九節ーしかり、アーメン。

児童擁護施設　望みの門かずさの里

子どもたちの暮らしを見て

主任心理相談員　新藤　紀子

「ぼくがやるー」「わたしにやらせてー」七人の幼児さんが生活するナオミの部屋では毎日のようにこんな言葉が飛び交います。そして落っことしながら箸を配る子、自分より背丈のある柄を握って壁にぶつけながら掃除機をかける子、介助の大人をびしょびしょにしながらシャワーを浴びる子、いろいろです。失敗しようが叱られようがどんどんチャレンジしようとする意気込みは、見ていて気持ちのよいものです。よく巷では、引っ込み思案な子について「あの子には自信がない」「もっと自信を持ってやればできるのに」という言葉を耳にします。では、どうしたら自信を持てるようになるのでしょうか？

心理学では「自信」のことを「自尊感情」とか「セルフエスティーム」と言ったりしますが、一言で言えば「自分に価値があると感じること」です。自分自身が「ここにいる」こと、「ここで生きている」ことを基本的に価値あるものとして評価し信じること

によって、人は積極的に意欲的に経験を積み重ね、満足感を持ち、自分自身や他人を受け入れることができると考えます。そして自尊感情は人が生きていくのに大切な「精神的な健康」や「人が社会に適応する基盤」を作るとも考えられています。しかし、未経験な幼児さんたちは自分でそれを感じることができません。そこで身近にいる大人がそれを見つけては本人に、言葉や態度で返して、本人たちが自覚しやすくしてあげる必要があるのです。「ああ、○ちゃんの歯って真っ白できれいだね」「今日はとってもいい顔しているよ。何かいいことがあったのかな？」「よくできたね。やっぱり△くんは力持ちだね」。大人の何気ない日々の一言一言が、子どものそんなに大切な自分に対する態度を決定していくなんて考えただけでもぞっとしませんか？先の見通しを立てて行動する大人はどうしても時間を気にします。「いまの時間」を楽しんでいる子どもには時間なんてどうでもいいことです。その大人と子どもが折り合いをつけながらお互いに生を育む、そんな大切な場が育児なのだとしみじみと感じるこの頃です。

乳児院　望みの門方舟乳児園

「梶（かじ）玉（たま）梓（ずさ）舞う」

主任児童指導員　井本　義樹

時が経つのは早いもので、四月に着任してからもう三ヶ月が過ぎました。この三ヶ月間というものは、子どもたちの成長に驚かされることばかりの日々でした。四月末、近くの農場へイチゴ狩りに行った頃には、まだハイハイが上手にできず、ベビーカーに乗ったままで外出を楽しんでいた子どもが、いつの間にかヨチヨチと上手に歩けるようになっており、「あうあぅ」と声を出すことしかできなかった子どもの口から「○○パパ、○○ママ」とはっきりとした言葉が聞けるようにもなりました。食事は食べさせてもらうのが当たり前だった子どもの手にも、今ではしっかりとスプーンが握られ、上手に食事を楽しむことができるようになっています。方舟乳児園の子どもたちの成長は、本当に目を見張るばかりです。

七月七日、方舟乳児園でも七夕のお祝いをしました。子どもたちと一緒に竹を取りに行き、笹飾りを作りました。短冊には職員一人ひとりが、願いを込めました。夕食は、天の川に見立てたちらしの献立に子どもたちは大喜び。七夕の歌を歌い、七夕飾りの前で記念写真もパチリ。みんなとびっきりの笑顔を見せてくれました。方舟乳児園では、このような年中行事やお祝いの一つひとつを大切にしています。乳児院には誕生後、すぐに入園してくる子どもも少なくありません。お宮参りやお食い初め、一歳の誕生日など初めての記念日がたくさんあります。誕生からの一年間は、人間の一生で一番大きく成長する時期とも言われています。その都度お祝いし、大切な成長の記録として残しています。子どもたちの目ざましい成長を近くで感じ、ともに喜ぶことができる、この職に感謝して日々を過ごしています。

編集後記

炎暑が続く。のぞみ会の田圃は今日も水やりと草取り。その中で新生舎のサマーキャンプ二泊三日には参加者二十数名と今までになり多数。青々とした稲はもう穂をつけている。九月初めには収穫である。八月二十六日にはドイツのベーテルに二名の職員が出発する。約四週間ベーテル・ビーレフェルト市にある福祉の町でＭＢＫのＧ・シェーア師のおはからいで研修予定。ちなみに昨年は二名のドイツ女性を受入れた。相互交換研修一期生である。即効は期待せず次世代の福祉専門職の質的向上を望みたい。七月九日には法人初めての有料老人ホーム十戸の起工式が菊池チャプレン司式のもとで行われた。本年末には竣功予定。特養入居待機者にも門戸を拓げたい。

千葉県は待機者一万六千人、全国一のワーストという。富津市の特養施設四ヶ所の累計では五百数十名、紫苑荘のみで百二十名の登録がされている。団塊世代が続々と高齢者の仲間入りをするのは目前である。（Ｙ・Ｉ）